

営 農 情 報

令和3年4月30日
第9号

秋まき小麦幼穂形成期以降の分肥について

本年の秋まき小麦は雪腐病の被害により、地域・圃場での生育のバラつきはあるものの、幼穂形成期は、平年並の5月5日頃迎える予定となっております。

2回目の分肥については幼穂形成期から5～7日後に実施することとなっておりますが、起生期追肥からの日数と葉色により判断しましょう。

無効分けつを抑制するため分肥時期は起生期追肥より2～3週間日数を確保してから施肥するようにしましょう。

分肥量については下表を参考に施用して下さい。

○秋まき小麦幼穂形成期の茎数別分肥施用量

茎数 (本/m ²)	窒素追肥量 (kg/10a)	
	きたほなみ	ゆめちから
600本未満	4～6kg/10a	4～6kg/10a
600本～1,300本	2～4kg/10a	
1,300本以上		2～4kg/10a

秋まき小麦の防除について

小麦連作圃場では眼紋病の発生が危惧されます。幼穂形成期から節間伸長期前半に適期を逃すことなく防除を実施しましょう。

○眼紋病に効果のある薬剤

薬 剤 名	使用時期	処理濃度	散布液量 (L/10a)	備 考
ユニックス顆粒水和剤47	幼穂形成期	500～700倍	100～150	連作圃場では必ず散布する。
カンタスドライフロアブル		1500倍	60～150	

秋まき小麦（きたほなみ）の赤さび防除について

近年、昨年多くの圃場で赤さびの発生が確認されております。赤さびは干ばつで発生しやすくなりますので適期を逃すことなく防除を実施しましょう。

○赤さびに効果のある薬剤

薬 剤 名	使用時期	処理濃度	散布液量 (L/10a)	備 考
アミスター20フロアブル	4月下旬～5月上旬頃	2000～3000倍	100～200	昨年赤さび発生が確認された圃場は必ず散布する。
イントレックスフロアブル		2000倍	60～150	

※昨年赤さびの発生が確認されている圃場については、必ず実施しましょう。

秋まき小麦の除草剤散布について

除 草 剤 名	使用回数	使 用 時 期	10a当たり施用量	備 考
エコパートフロアブル	2回	・広葉雑草2～4葉期 ・小麦止葉抽出前まで ・収穫45日前まで	50～75ml	高温時の散布は避ける
MCPソーダ塩	1回	・幼穂形成期 ・収穫45日前まで	200～300g	平均気温10℃以下効果減少
バサグラン液剤	1回	・小麦生育期 ・雑草3～6葉期 ・収穫45日前まで	100～200ml	—
ハーモニー75DF水和剤	1回	・幼穂形成期 ・収穫45日前まで	3～5g 3～10g	他薬剤混用×